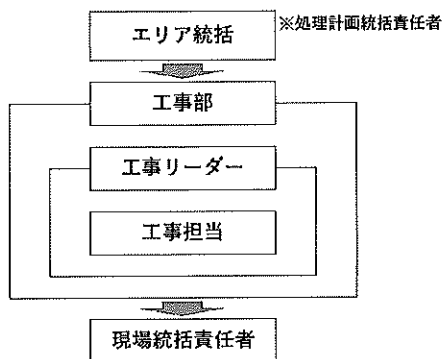


産業廃棄物処理計画書	
2025年 6月30日	
札幌市長 様	
提出者	
住 所 札幌市中央区大通西4丁目6－8 住友成泉札幌大通ビル3階	
氏 名 住友不動産ハウジング株式会社	
新築そっくりさん事業本部 北日本事業所 北海道エリア	
エリア統括 結城寿宏	
電話番号 050-3112-9867	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	住友不動産ハウジング株式会社 新築そっくりさん事業本部 北日本事業所 北海道エリア
事業場の所在地	札幌市中央区大通西4丁目6－8 住友成泉札幌大通ビル3階
計画期間	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	総合建設業
② 事業の規模	280,025万円
③ 従業員数	56人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	・すべての産業廃棄物を業者に委託 ・処理工程 廃棄物発生 → 収集運搬業者 → 産業廃棄物処理 → 最終処分処理場 ※一部、原材料として再資源化

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	排出量	t
	(これまでに実施した取組) ・建材は工場で加工し、現場で発生する廃棄物量を抑える。 ・梱包・包装をより簡素化出来るよう、業者・取引先と協議。	
② 計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	排出量	t
	(今後実施する予定の取組) ・土台や柱など活かせるものは活かし、また、歩留り良く発注することで廃棄物の減量を図る。	

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)	
	・廃プラスチック、金属くず、木くず、がれき類、紙くず、繊維くず、ガラス陶磁器くず、石膏ボードくずは分別する。	
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)	
	・発生した廃棄物の再生率を向上させるため、混合廃棄物とならないように更なる分別を徹底していく。 特に、木材・石膏ボードについては確実に実施・実行する。	

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

別紙のとおり

(第5面)

② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

前年度の廃棄物発生量(実績)及び今年度の廃棄物発生量(計画)目標

(前年度: 令和6 年度)
(今年度: 令和7 年度)

様式第二号の八 別紙

名 称	① 排出量 (実績/計画)	② 自ら直接再生利 用した量	③ 自ら直接埋立処 分又は海洋投入 した量	④ 自ら中間処理し た量	⑤ ④のうち熱回収 を行った量	⑥ 自ら中間処理し た後の残さ量	⑦ 自ら中間処理に より減量した量	⑧ 自ら中間処理し た後再生利用し た量	⑨ 自ら中間処理し た後自ら埋立処 分又は海洋投入 処分した量	⑩ 直接及び自ら中 間処理した後の 処理委託量	⑪ ⑩のうち廃棄物 処理業者への 処理委託量	⑫ ⑩のうち再生利 用業者への処 理委託量	⑬ ⑩のうち熱回収 施設業者への処 理委託量	⑭ ⑩のうち熱回収 施設業者以外の 熱回収を行う装 置への処理委託
産業廃棄物の種類														
1. 廃プラスチック類	前年度 383,915									383,915				383,915
	今年度 383,000									383,000				383,000
2. 紙くず	前年度 51,330									51,330		51,330		
	今年度 51,000									51,000		51,000		
3. 建設工事の紙くず	前年度 27,480									27,480		27,480		
	今年度 27,000									27,000		27,000		
4. ダンボール	前年度 16,140									16,140		16,140		
	今年度 16,000									16,000				
5. 木くず	前年度 373,148									373,148				373,148
	今年度 373,000									373,000				373,000
6. 建設工事の木くず	前年度 374,495									374,495				374,495
	今年度 374,000									374,000				374,000
7. 雑推くず (天然繊維くず)	前年度 0,000									0,000				
	今年度 0,000									0,000				
8. 建設工事の雑推くず	前年度 0,000									0,000				
	今年度 0,000									0,000				
9. 金属くず	前年度 323,379									323,379				323,379
	今年度 323,000									323,000				323,000
10. ガラス・コン クリートくず及び陶磁 器くず	前年度 194,100									194,100		194,100		
	今年度 194,000									194,000		194,000		
11. ロックウール	前年度 0,600									0,600		0,600		
	今年度 0,400									0,400		0,400		
12. グラスウール	前年度 49,220									49,220		49,220		
	今年度 49,000									49,000		49,000		
13. 陶磁器くず	前年度 148,300									148,300		148,300		
	今年度 148,000									148,000		148,000		
14. コンクリートくず	前年度 19,050									19,050		19,050		
	今年度 19,000									19,000		19,000		
15. 石膏ボード	前年度 176,130									176,130		176,130		
	今年度 176,000									176,000		176,000		
16. ALC(軽量気泡コン クリート)	前年度 7,250									7,250		7,250		
	今年度 7,000									7,000		7,000		
17. がれき類(工作物の断 片、破壊及び取替に 伴って生じたやぶ物)	前年度 113,664									113,664		113,664		
	今年度 113,000									113,000		113,000		
18. コンクリート破片	前年度 18,944									18,944		18,944		
	今年度 18,000									18,000		18,000		
19. アスファルト・コン クリート破片	前年度 0,148									0,148		0,148		
	今年度 0,100									0,100		0,100		
20. 管理型建設混合廃 棄物	前年度 53,378									53,378		53,378		
	今年度 53,000									53,000		53,000		
21. ガラスくず、コン クリートくず及び陶磁 器くず(石綿含有 廃棄物)	前年度 127,250									127,250		127,250		
	今年度 127,000									127,000		127,000		
22. 廃プラスチック類 (石綿含有産業廃棄物)	前年度 8,110									8,110		8,110		
	今年度 8,000									8,000		8,000		
23. がれき類 (石綿含有産業廃棄物)	前年度 260,191									260,191		260,191		
	今年度 260,000									260,000		260,000		
24.														
合 計	前年度 2726,222	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	2726,222	1176,335	94,950	0,000	1454,937
	今年度 2719,500	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	2719,500	1172,500	94,000	0,000	1453,000

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請け完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模がわかるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（産業廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項のすべてを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。